

0%

CO₂ゼロエミッションの実現へ、川崎重工のテクノロジー。

水素社会の実現に向け、川崎重工が開発を進めているのが100%水素の燃焼でCO₂の発生を0%にする、水素ガスタービン発電です。

課題となるのは、天然ガスよりも7倍速く燃える水素を、安定かつ大気汚染物質NO_xを発生させずにクリーンに燃焼させること。

そこで、川崎重工は独自の技術で、まったく新しい燃焼技術を開発。困難であった安定かつ低NO_xを両立する

CO₂ゼロエミッション燃焼をついに実現しました。水素ガスタービンを使った熱電併給システム。

その開発は、環境にやさしいクリーンな未来社会実現への大きな一歩となります。

川崎重工は、「つくる」「はこぶ」「ためる」「つかう」といった“水素エネルギーサプライチェーン”に必要な、

インフラ技術の開発・製品化に取り組んでいます。水素を安全に、安価に、安定的に取り扱い、

私たちの豊かな暮らしを実現していく道。それが“Kawasaki Hydrogen Road”です。

つくる



未利用資源の活用

液化水素の製造

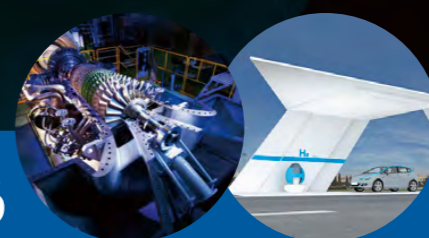
はこぶ・ためる



液化水素の大量輸送

液化水素の長期貯蔵

つかう



水素ガスタービン発電

燃料電池車の燃料

Kawasaki Hydrogen Road